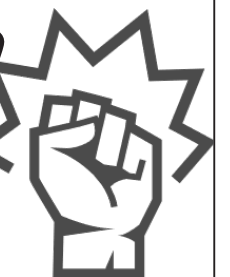


ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

不当配転に断固反撃を！



ジョブローテーション ただちに中止しろ！



現場からの声に力がある

ジョブローテーションにより、2月1日には千葉でも多くの乗務員が駅に強制配転されました。会社が矢継ぎ早に攻撃を仕掛ける中、声を上げること自身も困難を伴います。

しかし、鉄道を動かす力も、この職場の現実を変える力も、すべて現場労働者にあります。会社は「大きく」とも、「強い」わけではないのです。

現場労働者に力があるからこそ、どうしても東労組のジョブローテーション妥結を認めることはできません。攻撃を容認すればさらなる攻撃のエスカレートを引き起こします。たとえど

なに厳しくとも労働組合には譲ってほ
ならない一線があります。

ジョブローテーション容認できない

駅への大量配転は、東労組がライフサイクルについて「白紙撤回はできない」「3年で帰ってこれる」と現場を諦めさせ、容認してきた結果です。それが「恒久的な駅への配転」へのエスカレートを生みました。

大切なのは攻撃はここで終わったわけではないということです。駅への配転を容認すれば、次は「即出向」「転籍」「輸送サービススタッフ化」へと、乗務員を使い捨てる攻撃がさらにエスカレートすることは間違いありません。

今こそ職場から声あげよう

しかし、会社も何か展望を持っているわけではありません。本気になって声を上げれば、さらなる攻撃のエスカレートを止めることができます。

ライフサイクル提案当初、東労組の青年運転士たちの激しい怒りの声を前に、会社も実施を延期せざるを得ませんでした。乗務員をたらい回しにして駅に放り出すなど、それ自身が矛盾だらけです。現場が反対を貫いて声を上げていける以上、会社もやすやすとたらい回しにできないのです。

今こそ動労千葉とともに声を上げよう。